

生活満足度に最も影響を与える要素は、“夫婦仲が良いかどうか”

～「ヴィンテージ・ジェネレーション探究調査」より～

■生活満足度に最も影響を与える要素は、“夫婦仲が良いかどうか” ～「ヴィンテージ・ジェネレーション探究調査」より～

(株)I&S BBDO(社長:野副正行、本社:東京都中央区)プランニンググループ R&D では 2007 年 7～8 月、全国の「55～69 歳・既婚(配偶者と同居)の一般男女」を対象に、生活全般について調査した。

今調査において、当社では、団塊世代周辺を含めた 55～69 歳を、「豊富な生活経験を通して成熟したバリュー意識を備え、生き生きとした未来志向を携えた購買力豊かな生活者」の中心イメージに据えた上で、“ヴィンテージ・ジェネレーション”と名付け、その特徴を包括的に把握した。

◇確認できた“ヴィンテージ・ジェネレーション”の特徴的ファクト

■“ヴィンテージ・ジェネレーション”の「生活全般満足度」を構成する要素で、最も説明力が高いものは「夫婦仲」。夫婦仲や友達付き合い、食事といったことを“現在”楽しんでいるかどうかが生生活満足度の分かれ目。

■彼等の夫婦関係から、夫／妻別に以下各5つのクラスターに分類出来る。

【夫クラスター】

- ・「アツアツカップル」な夫・・・夫婦仲がとてよく、生まれ変わってもまた妻と一緒にになりたい
- ・「円熟馴れ合い」な夫・・・夫婦仲は特別良いわけではないが穏やかで質素な生活を送る
- ・「オンブにダッコ」な夫・・・伝統的夫権尊重型の古風な考えで、所謂“濡れ落ち葉”型の夫
- ・「割切り惰性」な夫・・・妻とはある程度距離をとっていたいと思う“腐れ縁”タイプ
- ・「底冷え夫婦」な夫・・・夫婦間コミュニケーションが希薄で、行動も別々が多く、離婚も視野に

【妻クラスター】

- ・「アツアツカップル」な妻・・・結婚当初から今まで夫婦関係に注力し、良好かつ円満な関係
- ・「パートナーシップ」な妻・・・対等平等な夫婦関係にあり、家計も夫婦別会計である割合が高い
- ・「内助の功」な妻・・・夫に寄り添い・従い、常に夫を第一に考えて生活してきた「昭和の妻」タイプ
- ・「夫に無頓着」な妻・・・夫との関係よりも、自身の家の外でのコミュニティ形成に重きを置く
- ・「底冷え夫婦」な妻・・・夫とは今生限りの妻。夫婦仲は冷め切り、常に離婚のリスクをかかえる

■実施概要

【対象者】 55～69歳・既婚の一般男女個人（配偶者と同居していること）

【対象地区】 全国（北海道、東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州（沖縄県除く）の7ブロック）

【調査方法／調査時期】 郵送調査法／2007年7月27日（金）～8月13日（月）

【有効回収数】 1,067票（発送数：1,430票 有効回収率：74.6%）

【サンプル構成】※消費者パネルより抽出の上、発送

	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
合計	1,067	43	77	377	189	177	96	108
男性計	529	21	37	189	95	85	48	54
55～59歳	213	8	17	73	37	36	19	23
60～64歳	154	7	10	58	27	21	14	17
65～69歳	162	6	10	58	31	28	15	14
女性計	538	22	40	188	94	92	48	54
55～59歳	220	10	19	76	38	37	20	20
60～64歳	161	6	9	60	30	26	12	18
65～69歳	157	6	12	52	26	29	16	16

【調査項目】

買い物に関する意識と実態／今後、お金をかけたい商品・サービス／今後、より節約したい商品・サービス／買う・利用するつもりはない商品・サービス／知っている商品・サービス／今利用している商品・サービス／今後（も）利用したい商品・サービス／インターネットの利用に関して／携帯電話の利用に関して／情報についての意識と実態／広告についての意識と実態／実施している趣味・レジャー活動／今後（も）夫婦で一緒に楽しみたい趣味・レジャー活動／「第2の人生」に対する意識と実態／これまで／現在／今後の生活注力点／今後の生活の不安点／夫婦関係について／子供との関係／孫との関係／現在、実践・参加している活動—今後、実践・参加したい活動／「今後の生き方」についての志向／自分の性格／現在の生活における満足度／フェイス項目（全25項目）

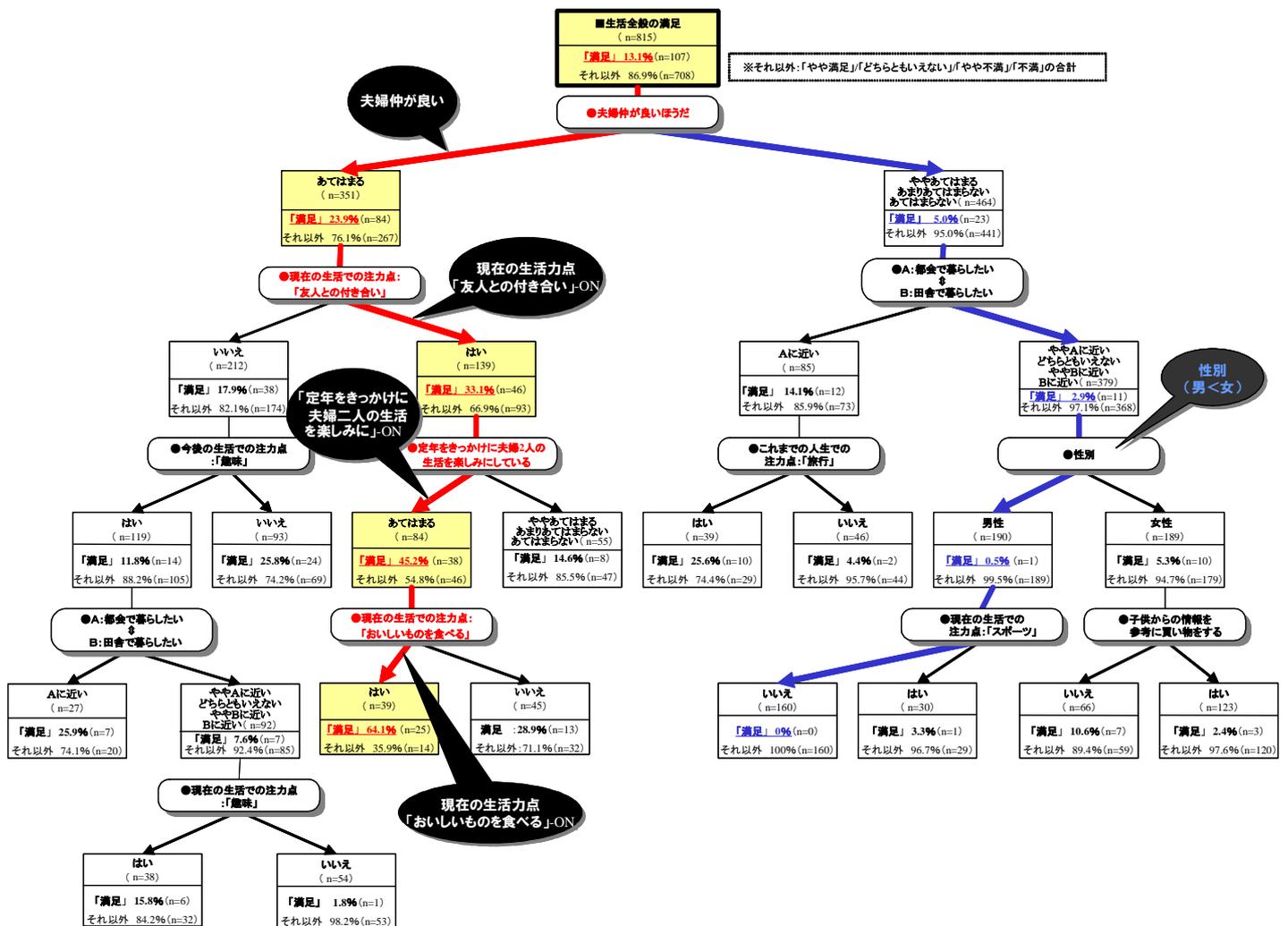
■主要結果

■ “生活全般満足”を構成する要素で、最も説明力の高いものは「夫婦仲」

ヴィンテージ・ジェネレーションの「生活全般満足」に最も寄与している変数は、「夫婦仲が良いほうだ」であり、夫婦関係の良し悪しが生活満足度の最重要要素であることが確認できた。「生活全般」が「満足」となる（「満足」へと最も大きく分岐する）説明変数を寄与順に第一層から順に追っていくと、「夫婦仲が良いほうだ（あてはまる）」→「現在の生活での注力点（MA）：友人との付き合い（ON）」→「定年をきっかけに夫婦2人の生活を楽しみにしている（あてはまる）」→「現在の生活での注力点（MA）：おいしいものを食べる（ON）」である。夫婦仲や友達付き合い、食事といったことを“現在”楽しんでいるかどうかが生満足度の分かれ目となるようである。

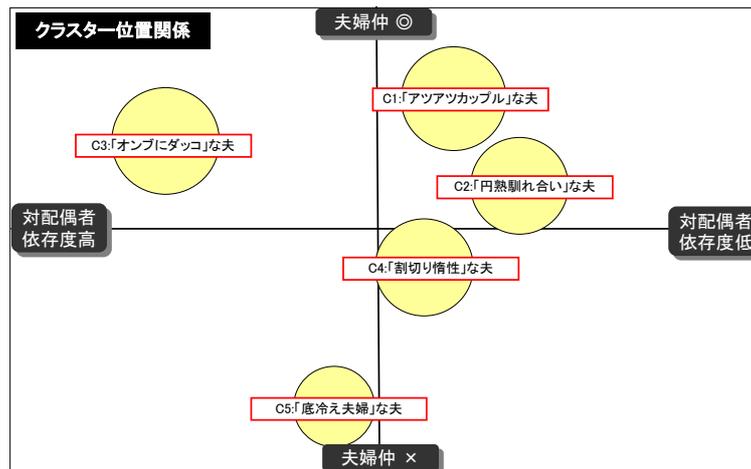
※ヴィンテージ・ジェネレーションの「生活全般満足度」を形成するファクターの構造を探るため、CHAID分析（Chi-Square Automatic Interaction Detector analysis）を実施した結果が以下の通りである。「生活全般満足度」に対する説明変数として基本属性項目や実態・意識項目となる様々な変数を持ち込んで分析を行った。（詳細は弊社発行の「R&D Forum (No.33) / ヴィンテージ・ジェネレーション探究調査」を参照）

● 「生活全般満足度」の構成要素(CHAID 分析結果)



次に、一概に「夫婦仲」といっても、様々な夫婦関係が存在するだろう、という実態を伴った仮説のもと、“夫婦関係”についての類型化を行った。今回は調査対象が(夫婦ではなく)「男女個人」であるのに加え、前出の全体ベースのCHAID分析においても、「性別」は判別要素として抽出された。これらの点から“夫婦関係”に関する類型化も男女別でみる必要があると考え、各個人ベースでの夫婦関係に関する回答から「夫クラスター」「妻クラスター」を作成した。

●夫婦関係における「夫」の類型化(クラスター分析結果)

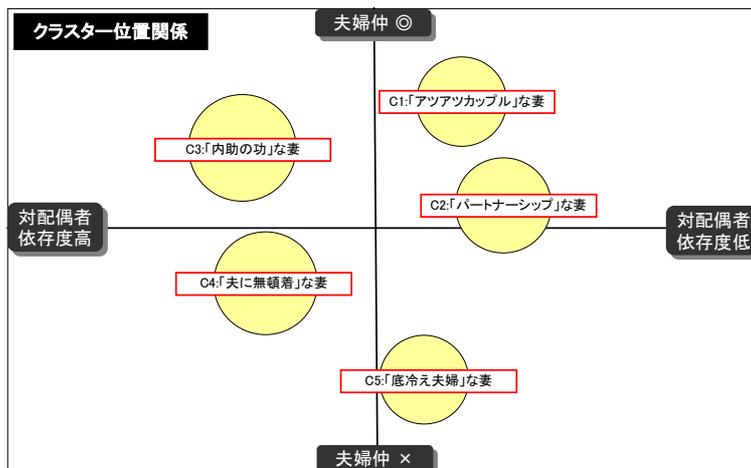


「夫クラスター」の各プロフィール

クラスター名／【属性特徴】	特徴概略	特徴的項目
C1:「アツアツカップル」な夫 クラスターサイズN=115／男性全体の23% 平均年齢:61.9歳	夫婦仲がとてもよく、生まれ変わってもまた一緒に なりたいたいと思っているほど妻との相性がよい。 今までも、これからも夫婦関係を大切にしてい こうと思っている。	高 反 応 夫婦仲が良いほうだ 定年をきっかけに夫婦2人の生活を楽しみにしている 低 反 応 寝室は夫婦別々である 離婚しようと思ったことがある
C2:「円熟馴れ合い」な夫 クラスターサイズN=100／男性全体の20% 平均年齢:62.1歳	夫婦関係については悪くはないが特別良いとい うわけではない。それほど夫婦二人で行動する わけではなく、家庭において家事を手伝う程度。	高 反 応 (特になし) 低 反 応 生まれ変わっても配偶者ともう一度一緒になりた い 定年をきっかけに夫婦2人の生活を楽しみにしている
C3:「オンビにダッコ」な夫 クラスターサイズN=121／男性全体の24% 平均年齢:61.8歳	元々、伝統的夫権尊重型の古風な男性であり、 新しいモノ・コトにすぐになじめず不器用な性格。	高 反 応 配偶者がいないと生きていけない 生まれ変わっても配偶者ともう一度一緒になりた い 低 反 応 夫婦間では男女平等を実践していると思う 男性も家事を積極的に行うべきである
C4:「割切り情性」な夫 クラスターサイズN=101／男性全体の20% 平均年齢:61.5歳	夫婦仲は悪くはないものの、ある程度距離を とっていたと思う“腐れ縁”タイプ。	高 反 応 (特になし) 低 反 応 夫婦仲が良いほうだ 生まれ変わっても配偶者ともう一度一緒になりた い
C5:「底冷え夫婦」な夫 クラスターサイズN=69／男性全体の14% 平均年齢:60.9歳	夫婦間のコミュニケーションが希薄であり、行動も別々 が多く、過去に離婚しようと思ったことがある。	高 反 応 離婚しようと思ったことがある 夫婦間のコミュニケーションが少ないほうだと感じる 低 反 応 夫婦仲が良いほうだ 生まれ変わっても配偶者ともう一度一緒になりた い

※(回答に欠損がみられたサンプルを除いた)n=506

●夫婦関係における「妻」の類型化(クラスター分析結果)



「妻クラスター」の各プロフィール

クラスター名／【属性特徴】	特徴概略	特徴的項目
C1:「アツアツカップル」な妻 クラスターサイズN=89／女性全体の17% 平均年齢:61.5歳	結婚当初から今まで夫婦関係に注力し、良好かつ円満な関係を築いてきたタイプ。	高反応 定年をきっかけに夫婦2人の生活を楽しみにしている 夫婦仲が良いほうだ 低反応 配偶者は、家庭より仕事を優先してきたと思う 離婚しようと思ったことがある
C2:「パートナーシップ」な妻 クラスターサイズN=100／女性全体の19% 平均年齢:61.4歳	対等・平等な夫婦関係にあり、家計も他の層より夫婦別会計である割合が高い。	高反応 夫婦別会計(夫婦各々で管理している)である 家事は二人で均等に分担している 低反応 家計は自分が管理している 配偶者は、家庭より仕事を優先してきたと思う
C3:「内助の功」な妻 クラスターサイズN=125／女性全体の24% 平均年齢:61.9歳	夫に寄り添い・従い、常に夫を第一に考えて生活してきた「昭和の妻」タイプ。	高反応 夫婦仲が良いほうだ 家計は自分が管理している 低反応 男性も家事を積極的に行うべきである 離婚しようと思ったことがある
C4:「夫に無頓着」な妻 クラスターサイズN=116／女性全体の22% 平均年齢:61.1歳	夫が仕事を優先させ、自分や家庭をおろそかにしてきた結果、「夫にしてもらう」ということに対してあきらめ感を抱いている。	高反応 配偶者は、家庭より仕事を優先してきたと思う 家計は自分が管理している 低反応 夫婦仲が良いほうだ 定年をきっかけに夫婦2人の生活を楽しみにしている
C5:「底冷え夫婦」な妻 クラスターサイズN=86／女性全体の17% 平均年齢:61.4歳	夫とは今生限りの妻タイプ。夫婦仲は冷め切っており、寝室も別々、性格は繊細なほうで、いつでも離婚のリスクを抱えている。	高反応 離婚しようと思ったことがある 配偶者が家にいないほうが気が楽だと思う 低反応 夫婦仲が良いほうだ 夫婦二人で行動することが多い

※(回答に欠損がみられたサンプルを除いた)n=516

今調査結果については、弊社発行の小冊子「R&D Forum(No.33)／ヴィンテージ・ジェネレーション探究調査」にてより詳細に解説しております。

☆本件に関するお問い合わせは……担当 川瀬まで

T. 03-6221-8523 F. 03-6221-8641 E-mail: kunio.kawase@isbbdo.co.jp